

風土計

2023・6・15

核家族、共働き、子育て。この条件がそろつと慌てふためく事態に遭遇する。急な子どもも預け先に困り、右往左往した経験は過去に数知れない

▼社会全体で子どもを育む。少子化対策を巡ってもそんなスローガンがあふれるが、地域との関わりはほとんど希薄に。登校中の児童におはようと声をかけたとしても、不審者扱いされてしまうかためらう時代だ

▼ただ子どもを取り巻く環境は複雑・多様化し、家庭や学校だけで豊かな成長を支えることが難しくなっている現実もある。安心して過ごせる「第三の居場所」とともに、地域の大人との接点が求められている

▼地域と共にある学校づくりを目指すコミュニティスクール(CS)に一つの方向性を見いだしたい。教員や保護者、幅広い住民が参画して一定の権限を持って学校運営に関わる制度であり、各地で導入が進む

▼杜陵高(三田正巳校長)で立ち上げた協議会が興味深い。不登校やさまざまな悩みを抱えて入学する生徒も少なくないが会合には生徒代表がオブザーバー参加し、学校の魅力づくりへ思いを語ったのが印象的だ

▼近隣商店街との連携を望む声も寄せた。「親でも先生でもない大人」との交流を望んでいるのがうれしい。CSは学校のパートナーであり、最大の応援団だ。子どもを支える取り組みを大事に育てていかねば。

※ 岩手日報 2023年6月15日付 この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。